



令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における 面接に係る資料

令和8年3月

埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課



なぜ全ての受検生に「面接」を行うのか

これまで (Before)

- ・ 調査書の記載事項は、各教科の学習の記録 (9教科5段階の評定)、総合的な学習の時間の記録、特別活動等の記録、出欠の記録、その他の各項目等
- ・ 面接は、一部の高校・学科等で実施

受検生の能力や意欲をより多面的・多角的に評価する

- ・ 入学者の受入れに関する方針に基づく選抜
- ・ 中学生 (受検生) の学校内外における活動の多様化を踏まえた選抜
- ・ 中学校学習指導要領を踏まえた選抜

学力検査や調査書だけではなく、受検生の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を、総合的に測る

「面接」を全受検生に実施

- ・ 中学校での学習活動、特別活動や部活動などの学校生活、学校外での体験などを振り返り、中学生が自身を見つめて、自分の言葉で表現する場
- ・ 話の上手さや正確さを評価するものではない
- ・ これまでの活動や取組の実績そのものではなく、そこに至るまでの過程 (プロセス) や意欲、身に付いた力、学びに向かう力などを多面的に評価

これから (After)

調査書の様式変更

各教科の学習の記録 (9教科5段階の評定)
総合的な学習の時間の記録 **のみ記載**

特別活動等の記録 (学級活動・生徒会活動・学校行事などを記載)、その他 (取得資格・スポーツ活動・文化活動・ボランティア活動などを記載)、出欠の記録 **の欄は削除**

「自己評価資料」の提出

委員会活動や部活動、資格取得などの学校内外での活動やその意欲などを、自らの言葉で表現して記入

面接の補助的な資料

面接では、他の誰でもない、皆さん自身の言葉で、自分を語ってほしい



「面接」で大切にしたいこと

社会の変化 →ますます変化が大きく、先の読めない時代

そんな時代に求められる力 →自ら課題を見つけ、考え、学び、判断して行動すること



これまでの体験、力を注いだこと、これから取り組みたいことなどは、一人一人にとって違う

「面接」を通じて自分自身を見つめ、それを自らの言葉で語ることは、求められる力を身に付ける、そのきっかけとなる

自らを振り返り、自分を見つめ直すきっかけになる

高校生活を充実させることにつながる

学校で学んだことを社会に出てからも生かす力となる

他の人に伝えることは、自分の考えを整理することにつながる

面接

未知の状況でも対応できるような力を育むための確かな土台となる



面接は「評価」の場であると同時に、皆さんが自己理解を深め、自らの歩みを見つめ直す大切な機会
→「評価」のためだけでなく、自らを語る体験を通じて、自分らしく「生きる力」を育てほしい



なぜ「My Voice」と名付けたのか

My Voice とは

- ・面接の最初に、受検生が1分30秒から2分程度で話す時間の名称
- ・受検生は、これまでの経験を振り返り、力を注いだことや将来取り組んでみたいことなどを、自らの言葉で表現して伝える

自分自身を見つめ、自分の言葉で語ることが大切
ありのままの皆さんの歩みや思いを表現してほしい



My Voice = 「あなたの思いを、あなたの言葉で表現しよう」

My Voiceの“タネ”

これまで、どんなことに取り組んできたか？	その中で、心が動いた瞬間は何か？	なぜそれが、自分に大切だったのか？
それがどんな成長に繋がったか？	自身又は仲間と、何に気づき、何を学び、何を考えたのか？	
どんな高校生活を送りたいか？	自身又は仲間と、どんなことをしたいか？	
将来、どんな自分でありたいか？	どんな人生や未来をつかっていきたいか？	



樹木が全身で色を生み出して美しい花を咲かせるように、皆さんが語る1つ1つの言葉には、皆さん自身があらわれる

→受検生の「My Voice」を見取る



「My Voice」と「質問・応答」



出願から面接まで

出 願 (令和9年1月26日～2月9日) 「自己評価資料」を提出



学力検査 (令和9年2月25日)



面 接 (令和9年2月26日)



詳細は、県ホームページの実施要項等に掲載

「実施要項・選抜要領」(暫定版) → 確定版は令和8年5月公表予定

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/257619/r9nyushizisshiyokozanteiban1011.pdf>

「各高等学校の選抜実施内容」(暫定版) → 確定版は令和8年5月公表予定

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/r9nyuushi-senbatsuzisshinaiyou.html>

面接当日

[形式] 個人面接 or 集団面接

[流れ] 入室 → My Voice (マイボイス) → 質問・応答 → 退室
《1分30秒～2分程度》 《3分30秒～6分程度》

※時間は、1人当たりの目安の時間



「面接」と「自己評価資料」

自己評価資料とは

- ・ 面接の補助的な資料（得点化しない）
 - ・ 受検生が自ら作成（自筆又はコンピュータ）
- ※文章・文字の巧拙は、評価の対象外

作成のプロセス

参考資料

- ・ 日頃の「気づき」や「変化」をまとめたノートやメモ
- ・ キャリアパスポート ...などを活用



自分の「これまで」と「これから」を振り返り、整理しながら記入

内容

- 1 これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいことなどについて、自分の考えを書く
- 2 学校独自項目
 - 高校が「選抜実施内容」の面接の欄に「学校独自項目」を設定している場合は、その項目の内容について記入

(様式〇) ※

自己評価資料

志願先 高等学校	立	高等学校	学科等	科・系・コース (部)
ふりがな 志願者氏名			出身校	立 中学校

1 これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて、自分の考えを書いてください。

2 学校独自項目



「選抜実施内容」と「学校独自項目」

令和7年12月に暫定版を公表
令和8年5月に確定版を公表予定

選抜実施内容とは

各高校が学科等での「目指す学校像」や「入学者の受入れに関する方針」を実現するための選抜方法を定めたもの

特色選抜と共通選抜の両方を実施する高校例
※特色選抜のみ又は共通選抜のみで2段階選抜（第1次・第2次）を実施する高校もある
※傾斜配点・学校選択問題の実施の有無も記載

学校独自項目とは

- ・ 独自項目の内容は「My Voice」の中で受検生が表現したり「質問・応答」の時間に面接官から質問されたりする
- ・ 各高校は、評価の観点及び評価規準を定めて、得点を算出

各高校が、学校、学科等の特色に応じて定める

- 例) ・ 本校のアドミッション・ポリシーについて、これまでの体験と今後挑戦したいことを交えて自分の考えを書いてください
- ・ 志望する専門学科に関わる内容で、入学後や将来取り組んでみたいことを書いてください

学力検査・調査書・面接・特色検査（実施する場合）の得点の合計
第2志望の有無などを記載

※各高等学校の選抜実施内容（暫定版）は、県ホームページに掲載
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/r9nyuushi-senbatsuzisshinaiyou.html>

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施内容（暫定版）

全日制	埼玉県立三郷工業技術高等学校		機械科・電子機械科・電気科・情報技術科・情報電子科								
目指す学校像	ものづくりの精神の下、豊かな人間性を育成するとともに、工業の専門性を高めるカリキュラムや基礎学力向上を重視した学習を通して、一人一人の自信を高め、地域に貢献でき、健康で健全な技術者となる人材を育成します。										
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(1) 「ものづくり」に興味・関心・適性があり、入学後も積極的に学習していこうと考えている者 (2) 文化・芸術・スポーツのいずれかに優れた適性及び実績があり、入学後も意欲的に活動に参加する意志のある者										
募集学科等	機械科・電子機械科・電気科・情報技術科・情報電子科							①特色	80%		
								②共通	20%		
選抜の種類	特色選抜					共通選抜					
学力検査	国語・社会・数学・理科・英語の5教科					国語・社会・数学・理科・英語の5教科					
	学校選択問題は実施しない										
調査書	学年間の比率	1年	2年	3年	基本点	学年間の比率	1年	2年	3年	基本点	
		1	1	3	225		1	1	3	225	
面接	実施方法	集団面接									
	自己評価資料 学校独自項目	本校の校訓は「正確に はやく 美しく」です。これは工業において重要なことですが、なぜだと思いますか。あなたのこれまでのものづくりの経験を交えながら自分の意見を書いてください。									
	評価の観点	ものづくりを通して獲得した力									
	評価規準	ものづくりを通して獲得した力について述べられているか。									
特色検査 ※実施する場合のみ	実施内容	実施しない									
	評価の観点										
選抜資料配点	学力検査	調査書	面接	特色検査	合計	学力検査	調査書	面接	合計		
	500	400	100	0	1000	500	400	60	960		
第2志望	全ての学科において、相互に第2志望を認める										
その他	なし										



どう評価されるか（評価の方法）



これまでの活動や取組の実績そのものではなく、実績に至るまでの過程（プロセス）や意欲、身に付いた力、学びに向かう力などを、以下の「評価の観点」「評価規準」をもとに、多面的に評価する。

評価の観点（共通）		評価の観点（学校独自）
1 主体的・協働的な学びの力	2 自らの人生や社会の未来を切り拓く力	3（各高等学校が定める）
評価規準		
これまでの自身の活動を振り返りながら、持続可能な社会の創り手となるために、主体的・協働的に学び続ける意欲を持っているか。	自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら、自らの人生や社会の未来を切り拓こうとしているか。	（各高等学校が定める）
評価		
5 <input type="checkbox"/> 「大変優れたものとして評価できる」 持続可能な社会の創り手となるために、主体的・協働的に学び続ける意欲が極めて明確で、具体性を持った、大変優れたものとして評価できる。	<input type="checkbox"/> 「大変優れたものとして評価できる」 自分のよさや可能性を十分に認識し、あらゆる他者を価値のある存在として大変よく尊重しながら、人生や社会の未来を切り拓こうとする意志が極めて明確で、具体性を持った、大変優れたものとして評価できる。	<input type="checkbox"/> 「大変優れたものとして評価できる」
4 <input type="checkbox"/> 「優れたものとして評価できる」 持続可能な社会の創り手となるために、主体的・協働的に学び続ける意欲が明確で、優れたものとして評価できる。	<input type="checkbox"/> 「優れたものとして評価できる」 自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら、人生や社会の未来を切り拓こうとする意志が明確で、優れたものとして評価できる。	<input type="checkbox"/> 「優れたものとして評価できる」
3 <input type="checkbox"/> 「評価に値する」 持続可能な社会の創り手となるために、主体的・協働的に学び続ける意欲が、評価に値する。	<input type="checkbox"/> 「評価に値する」 自分のよさや可能性を認識しようとし、人生や社会の未来を切り拓こうとする意志が、評価に値する。	<input type="checkbox"/> 「評価に値する」



どう評価されるか（評価の方法）

実施計画

各高校が作成、質問内容、質問方法、評価の観点・評価規準を定める

面接委員

教諭等を充て、2名以上を1組として評価に当たる

質問内容

各高校が学校、学科等の特色に応じて、質問内容を定める

得点の算出（評価）

評価は、観点ごとに「3～5」の3段階を基本とする

具体的には「My Voice」・「質問・応答」の時間で受検生が話した内容から、以下のような力を評価していく

「主体的・協働的な学びの力」
 これまでの自身の活動を振り返りながら、持続可能な社会の作り手となるために、主体的・協働的に学び続ける意欲を持っているか

「自らの人生や社会の未来を切り拓く力」
 自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら、自らの人生や社会の未来を切り拓こうとしているか

各高校が定めた「学校独自項目」に記載された力
 （各高校が定めた評価規準に従って、評価します）

各高校の実施計画
 各高校は、左の「評価の観点」や「評価規準」をもとに、さらに詳細な評価のための規準、それに応じた質問内容や質問方法等を定めて、得点を算出する。





「My Voice」 どう考えたらよいのか

内容に「正解」はない

「My Voice」で話さなかった内容を「質問・応答」で触れることもある

話し方の「上手さ」ではない

高校入試の時期は、まだ将来について模索している途中であることも自然

- ・ 「自己評価資料」で記載した全てを話す必要もない。
- ・ 何を話すかは自由。成功した体験や実績がなくてもよい。
- ・ つらい体験なども話してもよい
- ・ 無理に整った志望理由を用意しなくてよい。

- ・ 人前で話すことが苦手でも大丈夫。言葉に詰まってもよい。
- ・ 何を考えてきたか、どんな思いを持って伝えるか。自分なりに考え、伝えることが大切。

選択性緘黙等で話すのが難しい場合、事前に中学校を通して、その旨を高校に相談する

ポイント

主体的に自分らしく取組を積み重ね、常日頃から自己を探究し、自分を表現できるようにする

- ・ 自分のやりたいこと、日々の学習や行事などの中学校での活動、学校外での活動等に積極的に取り組む
- ・ そこでの自分の経験や考えを整理する、自分自身を見つめ直す
- ・ 取り組んできた過程（プロセス）を大切にする

日頃の生活・学習での「気づき」や「変化」をまとめたノートやメモ、キャリアパスポートなどを活用してもよい

入試は、中学校生活の延長線上にある。

実績そのものではなく、なぜその活動に取り組んだのか、そこから何を学び、成長できたのかを深く考え、自分の言葉で具体的に表現できる力を身に付ける。それがその先の高校生活にもつながる。





「自己評価資料」と「My Voice」と「質問・応答」

自己評価資料

- ・面接の補助的な資料（面接委員が参考とする）
- ・受検生が主体的に作成。自由で多様な表現を尊重。
- ・メモや箇条書きでも可。整った文章である必要はない。
- ・「My Voice」で同じ内容を話さなくてもよい。

My Voice

- ・面接の最初に、受検生が1分30秒から2分程度で話す。
- ・受検生は、自らの言葉で表現して伝える。
- ・自己評価資料と必ずしも関連付けなくてもよい。同じ内容になることもあるし、違う内容でもよい。



質問・応答

- ・面接委員が「自己評価資料」に記載された内容、「My Voice」で受検生が表現した内容を参考にしながら質問する。
- ・受検生は、質問に対して、自分らしく考え、それを言葉にして応答する。
- ・「My Voice」で触れなかった内容でも、「自己評価資料」に書かれたことについて、共通の評価項目や学校独自項目に関する評価のために、面接委員から質問される場合もある。
- ・質問内容は、各高校が学校、学科等の特色等を踏まえ、適切に定める。

大切にしたいこと

- ・自分を振り返る。経験を言葉にする。それを他者に伝える姿勢。
- ・一言一句、暗記する必要はない。

